

雇用失業統計研究会（第6回）議事概要

1 日 時 平成28年3月18日（金） 10:00～12:00

2 場 所 総務省第2庁舎 7階中会議室

3 出席者（構成員） 玄田 有史 東京大学教授[座長]
太田 聡一 慶應義塾大学教授
神林 龍 一橋大学教授
黒田 祥子 早稲田大学教授
篠崎 武久 早稲田大学教授
原 ひろみ 日本女子大学准教授
中井 雅之 厚生労働省職業安定局雇用政策課長
川村 俊雄 東京都総務局統計部社会統計課長

（ワ） 石原 典明 厚生労働省大臣官房統計情報部雇用・賃金福祉統計課長

（統計局） 千野統計調査部長，横山審議官，植山調査企画課長，
江刺労働力人口統計室長，土生企画官，小泉課長補佐，吉田課長補佐，
長尾課長補佐，柳沼課長補佐，山口専門官 他

4 議 題 (1) 平成29年就業構造基本調査の調査事項について
(2) 就業希望の把握に関する準備調査の状況等について
(3) 従業上の地位別結果の推計の検討状況について
(4) その他

5 議事の概要

(1) 平成29年就業構造基本調査の調査事項について

- ・ 「A1の3」（現職の雇用契約期間）と「C5」（前職の雇用契約期間）の選択肢区分が異なるが，記入者が混乱するおそれがあるため，この二つの間の選択肢区分は統一すべきではないか。
- ・ 当該項目の選択肢区分については，現在実施中の「就業希望の把握に関する準備調査」における記入状況などを踏まえて検討した方がよい。
- ・ 「F1」の「育児をしている」人の負担度については，男性の育児参加に関心が高まる中で，女性の継続就業率に与える影響の分析など，政策的なニーズもあることから，厚生労働省で実施している「21世紀出生児縦断調査」の調査項目も参考にすることで把握方法を検討すべきではないか。
- ・ 「F1」の選択肢について，子供がいながら「育児をしていない」と回答するのはほとんどないと考えられるため，ここでは，育児の負担感を聞くという考えもあるのではないか。
- ・ 「育児」の定義について，「F1」だけ「未就学児を対象」とした育児に限定しているので，記入者が混乱しないような工夫が必要ではないか。
- ・ 平成29年就業構造基本調査の集計事項は，地方創生などの関係でも重要であるので，都道府県別結果を充実させるべきである。

(調査事項については、「A10の2」(どうしてほかの仕事に変わりたいのですか)は今回提示した案とし、「C5」(前職の雇用契約期間)及び「F」欄(育児・介護の状況)については、項目の構成は今回提示した案としつつ、選択肢等については次回の研究会で再度提示することとなった。)

(2) 就業希望の把握に関する準備調査の状況等について

(事務局から、就業希望の把握に関する準備調査の実施状況及び主要国へのILO決議対応状況の照会結果について報告を行った。)

(3) 従業上の地位別結果の推計の検討状況について

(従業上の地位別結果の推計に関する検討結果については、本日の報告を踏まえて、次回の研究会において最終的なとりまとめ結果を参考資料として添付することとなった。)

(4) その他

(事務局から、ILOで開催された従業上の地位の国際分類改定WG(第2回)の状況について報告を行った。)

- ・ 国際的な動向をみていくのは非常に重要な取組なので、引き続きこうした会議に出席し、日本の状況を説明していくというスタンスで対応することが重要ではないか。

【次回の研究会について】

- ・ 次回(第7回)は6月頃に開催する。

(以 上)